

調書1 補助金等調査表（チェックシート）

所属 郷土博物館

（1）補助金の内容

名 称	浦安伝統技術伝承補助金		
交 付 開 始 年 度	平成13年	終了予定年度	
交 付 先	浦安細川流投網保存会		
交 付 の 目 的 ・ 必 要 性	浦安の伝統技術である「浦安細川流投網」の伝承、普及を図る。 その活動の活発化を図り、市民が伝統文化に触れる機会を充実する。		
対 象 事 業 の 内 容	「浦安細川流投網」の伝承、普及にかかわる事業補助や、道具の整備		
形 態	☒ 事業補助 ☐ 運営補助 ☐ 混合補助 ⇒ 割合が大きいのは ☐ 事業補助 ☐ 運営補助		
直 近 の 見 直 し 状 況	見直した時期	令和7年3月	
	内 容	団体から提出された決算書・予算書を基に補助金の使途が適切か確認し、補助対象事業の見直しを図った。併せて、総支出額に対する補助金の割合が約60%と高く、まずは50%を目標として、自主財源の増加に向けた取り組みをするよう指導を行った。	
交 付 申 請	受領書類	☒ 事業計画書 ☒ 収支予算書 ☐ その他（ ）	
	確認内容	活動内容、支出内訳	
実 績 報 告	受領書類	☒ 事業報告書 ☒ 収支決算書 ☐ その他（ ）	
	確認内容	活動実績、支出内訳	

補助金等調査表（チェックシート）

（２）補助金見直しの基本視点に基づく評価

（※具体的な根拠指標には、設問に対する評価根拠となる、成果等を示す数値的な指標を記載すること）

公益性	補助事業が、客観的に見て、より広く市民等に利益をもたらす、または還元されている。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		広く社会に利益をもたらす	保存会の活動を通し、浦安の伝統文化を市民に広く伝えることができる。
	補助事業の目的が、時代や社会情勢に合っている。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		ほとんど合っている	市指定無形文化財を伝承・普及していくうえで、時代や社会情勢に左右されず支援をしていかなければならない。
必要性	補助金を交付する形で、市が関与する妥当性がある。	評価	「ある」→妥当性について記入。 「ない」→妥当性がないにも関わらず補助する理由を記入。
		ある	浦安市文化財保護条例第32条による。
	補助金がない場合、団体等は自主財源で事業を行うことができない。	評価	「できる」→自主財源で事業実施可能にも関わらず補助する理由を記入。 「できない」→補助金がないれば事業を実施できない理由・具体的根拠を記入
		できない	活動を行うための道具の維持・管理などの費用がかかるため。
	市民ニーズが高いものである。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		高い	浦安公園での公開練習やイベントを通し浦安の細川流投網を広く市民に伝えているほか、市内イベントへの出演など、幅広い場面で活動を行っている。
	市民ニーズに即している。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		即している	浦安公園での公開練習やイベントへの出演において、市民が浦安の伝統技術に触れる機会を提供できている。
	補助金の意義について、的確に説明できる。	評価	「できる」→誰に対しどのような効果があるか等について記入。 「できない」→説明できない理由について記入。
		できる	浦安に伝わってきた伝統の技・文化を、市民に披露することで、知ってもらうために補助を行っている。その事業をサポートするため、補助金を交付している。
	補助期限（終期）を設定している。	評価	「設定済」→設定年度とその根拠を記入。 「未設定」→設定しない理由と今後の見通しを記入。
		未設定	伝統技術の継承には継続性が必要で、単発ではなく持続的に育成・補助が必要であるため。
	補助金申請に係る積算根拠が明確である。	評価	「はい」→積算根拠を何で確認しているかを記入。 「いいえ」→積算根拠が不明確である理由と今後の見通しを記入。
		はい	計画性を持ち、事業に必要な道具の購入を行っている。

補助金等調査表（チェックシート）

施策との整合性	当該補助金は、市の政策目的や施策と整合している。	評価	「している」→どのような点で整合しているのか記入。 「していない」→整合していないにも関わらず補助する理由を記入。
		している	浦安市総合計画基本目標1「育み学び誰もが成長するまち」の中の「歴史・伝統文化の保存・継承」に基づいている。
	補助事業が本市の特性を生かした取り組みである。	評価	「はい」→どのような点で特性を生かしているのか記入。
		はい	「浦安の細川流投網」は浦安独自の伝統的文化であり、本市で広く伝えていく必要があるため。博物館で演技の披露や練習を公開したり、学校へ出張授業を行うことで広く市民に浦安伝統文化を身近に感じてもらう。
公平性	事業を実施できる団体が他にない。（複数存在する場合、当該補助金がその事業者だけに交付される合理的な理由がある。）	評価	「はい」を選んだ理由
		はい	「浦安の細川流投網」は、浦安市指定無形文化財であり、保持団体として認定されているのは浦安細川流投網保存会のみであるため。
		「いいえ」の場合、補助金がその事業者だけに交付される合理的理由を記入。	
	補助対象経費に対して、補助事業者等にも応分の負担を求めるべき事業には、一定の適切な補助率や限度額が設定されている。	評価	「設定済」→補助率とその根拠を記入。 「未設定」→設定しない理由と今後の見通しを記入。
		未設定	現状、未設定の理由としては、文化財保持団体はその特性上、自主財源の主たるものが会員から徴収する会費であるため。しかしながら、自主財源の確保に繋がる取り組みを継続し、団体の財政状況に改善の見込みが立ち次第、改めて補助率や限度額の設定について検討を行いたいと考える。
効率性	補助目的に見合った成果や、施策実現に向けた効果がある。	効果の測定方法・具体的な根拠指標	
		博物館事業、市内イベントへの出演回数など、年間の活動実績による。	
		評価	評価理由
		十分効果をあげている	浦安公園での公開練習やイベントを通し浦安の細川流投網を広く市民に伝えているほか、市内イベントへの出演など、幅広い場面で活動を行っている。
	手法として、委託等の手法よりも、補助金を交付することがより合理的である。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		はい	浦安市文化財保護条例を根拠に、浦安独自の文化団体に対し、委託するよりも補助しながら継承をしていく。
	国や県、本市において同様の補助事業がない。（※国県要綱に対し、上乘せ・横出しする補助事業は除く）	評価	「ある」の場合、同様な補助事業と両方存続させる理由を記入。
		ある	市指定文化財であり、県の補助は期待できない。
補助対象経費の明確化	補助金対象内外経費が明らかになっているか。	評価	「はい」→何で確認をしているか記入。 「いいえ」→明確にしていない理由を記入。
		はい	団体から提出される決算書にて確認している。
	補助対象外経費を補助対象としていない。（対象としている場合は、明確な根拠を持っている。）	評価	「対象としている」の場合、費目及びその根拠規定と対象となる考え方を記入。（※費目とは、飲食費や慶弔費など）
		対象としていない	

補助金等調査表（チェックシート）

※以下の項目は、団体補助金のみ記述。

団体補助金	団体の設置および活動目的が、補助事業からみて整合しているか。また、団体としての活動実態があるか。	評価	評価の理由
		はい	浦安公園での公開練習、博物館への事業協力など、伝統技術の普及に努めている。
	補助事業の内容と成果について、交付団体においても対外的に情報公開を実施しているか。	評価	「はい」→情報公開の手法等について具体的に記入。 「いいえ」→実施できない理由と今後の見通しを記入。
		はい	浦安公園での公開練習やイベント等で技術を披露しているほか、SNS・動画配信を活用して、活動内容等について広く周知している。
	団体内で、補助金の使途や決算などの監査機能が有効に機能していて、透明性等をもって運営されているか。	評価	「はい」→どのような監査手法で実施しているか記入。 「いいえ」→機能していない理由と今後の見通しを記入。
		はい	総会を開催し、事業報告・決算報告が承認されており、監査報告書が提出されている。
団体補助金	補助金交付団体の自立性を促すことなどから、運営補助から事業補助へ移行を図っているか。	評価	「運営補助」の場合、事業補助に移行できない理由と今後の見通しを記入。 ※混合補助で実施している場合は、割合が大きい方を選択してください。
		事業補助	
	市職員が補助金交付団体の事務を行っているか。（行っている場合は合理的な理由があるか。）	評価	「行っている」の場合、合理的な理由を記入。
		行っていない	
繰越金	交付団体の補助事業会計において、補助金額以上の繰越金を計上している。 （※複数団体ある場合は、各団体を一覧化したものを別紙にて提出のこと）	評価	具体的な根拠指標
		いいえ	直近決算額における補助金額 220,000 円 繰越金額 円 { うち補助事業会計分 円 うち団体独自会計分 円
		繰越金額が生じた具体的な原因について記入。	
	上記設問において、「はい」の場合、補助金の減額ないし、休止などの必要な対策を考えている。	評価	「はい」→具体的な対応策について記入。 「いいえ」→対応できない理由について記入。

補助金等調査表（チェックシート）

（３） 国県要綱・近隣市補助金との比較を通じた評価

近隣市と比較すると高額であるが、浦安の伝統技術である「浦安の細川流投網」の伝承、普及に当たって、博物館での練習公開や博物館事業への協力のほか、学校での体験学習への協力や市内イベントへの出演などに、自主的な活動を展開し、事業経費が比較的高くなっている状況であり、補助金の額としては妥当であると考える。

（４） 補助金の課題

道具の整備や購入に当たっては、その内容によって必要な金額等が変わってくる。
現状は適正であると考えるが、今後も引き続き、補助の対象や金額が適正であるかの確認をしていくことが必要となる。

（５） 所属長の総合評価

「浦安の細川流投網」は、市民の模範となる優れた文化活動である。
博物館の事業だけでなく、市の様々な事業を始め、依頼を受ける様々な場所で出演し、浦安の伝統文化を広くPRしており、また、公開練習等、団体が保持している伝統技術を披露する機会を創出することで、地域に根付く伝統文化を広めるとともに、市民の郷土愛を醸成する機会の創出に取り組んでおり、伝統芸能を伝承する保存会の趣旨を考えると、補助金をもって団体を支援することは大きな意義がある。
当面の課題としては、市内在住・在勤の会員の増加による市内外会員比率の改善、併せて会費の金額を見直し適正な金額にすることで、自主財源を増加させることであり、課題の解決に向け、引き続き指導及び支援を行っていく必要があると考える。
これらを踏まえ、今後も継続して見直しが必要であるが、現状の補助金交付については妥当であると考える。

（６） 補助金の今後の方向性

☐ 現行のまま継続
☒ 見直しをしたうえで継続
☐ 廃止
☐ その他

その他の内容

現行 継続の 理由	
-----------------	--

見直しの時期	令和8年度
見直しの 内容	自主財源等の資金調達の強化や補助対象内容の見直しを検討する。

廃止の時期	
廃止の理 由	